



がんセンターたより

INDEX

- 脳腫瘍診療の最前線
正確な診断から、一人ひとりに合う治療へ ... 2・3
- サイエンスかながわ2026
がん研究体験プログラム開催報告 ... 4
- ブラックジャックセミナー開催報告 ... 4
- 地域医療連携交流会の開催報告 ... 4
- PSAが高い＝がんではありません
～前立腺の“数字”をどう読み解く?～ ... 5
- 緩和ケア研修会の開催募集 5
- 治験ニュース 6
- 受診方法のご案内 6
- 編集後記 6

過去の記事はこちら。
以下のQRコードを
読み取ってください



－ 地域とともに歩む、がん医療のこれから －

「湘南を望む江ノ電（鎌倉市）」

脳腫瘍診療の最前線

正確な診断から、一人ひとりに合う治療へ



脳神経外科は 何をする科？

脳神経外科は、画像検査や神経診察で脳腫瘍の診断を行い、必要に応じて手術を行うほか、放射線治療や薬物療法をどのように組み合わせるかを検討する診療科です。

脳腫瘍には、脳から発生するグリオーマ、脳を包む膜から生じる髄膜腫、ほかの臓器のがんが脳へ広がる転移性脳腫瘍などがあります。頭痛、けいれん、手足の動かしにくさ、言葉の出にくさをきっかけに見つかることもあります。



遺伝子情報を 診断に活かす時代へ

同じように見える脳腫瘍でも、遺伝子の特徴によって腫瘍の性質や治療への反応が異なることが分かってきました。そのため、手術で採取した組織を顕微鏡で観察する病理診断に加え、現在は腫瘍の遺伝子異常を調べる分子診断も重要です。腫瘍組織を用いた遺伝子検査の一部は、保険診療で実施できる場合もあります。

また、CTやMRIの進歩により、腫瘍と重要な血管、運動や言語に関わる部位との位置関係を詳しく調べられるようになりました。これにより、手術の計画がより綿密に立てられるようになりました。

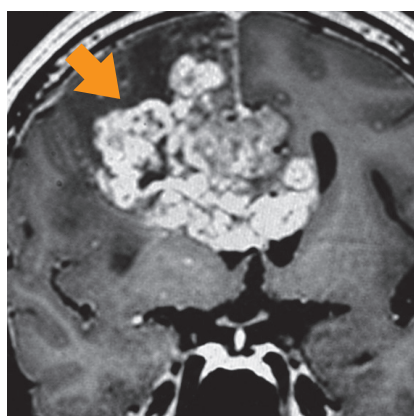
一人ひとりに合った治療へ

画像診断、病理診断、分子診断を組み合わせることで診断の精度が高まり、より適切な治療の選択につながります。遺伝子異常によっては、分子標的薬や臨床試験を検討できる場合もあります。ただし、すべての患者さんに有効な薬が見つかるわけではありません。

当センターでは、脳神経外科、放射線治療科、血液・腫瘍内科（腫瘍）、病理診断科、がんゲノム診療部門が連携し、病状や生活背景、ご希望を踏まえて治療方針を検討しています。

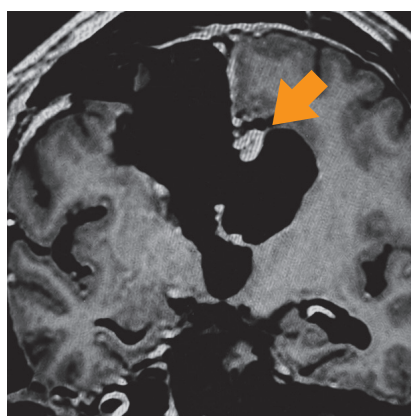
代表症例

50歳代 膠芽腫（悪性脳腫瘍）



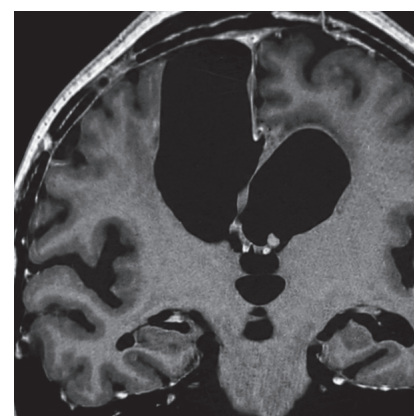
手術前

6cmを超える非常に大きな腫瘍を認める。



標準治療後

2回の手術と薬物療法・放射線治療・電場療法などあらゆる標準治療を行ったが病変が残存している。



分子標的治療後

がんゲノムパネルで適合した分子標的治療薬を開始し、半年経過した時点。画像では病変は認識できない程度に縮小し、この状態を維持している。

※本症例は、担当医の前任地である横浜国立大学附属病院と当センターで連携しての治療例であり、前任地での経過を含みます

Voice

診療科長のコメント

“最大限の摘出と神経機能の温存の
両立を目指します”

「脳に腫瘍がある」と聞けば、大きな不安を感じるのは当然です。まず正確に診断し、治療の選択肢を分かりやすくお伝えすることを大切にしています。

手術では、最大限の摘出と神経機能の温存の両立を目指します。がんゲノム医療や臨床試験も活用しながら、一人ひとりに適した治療をチームで考えてまいります。



脳神経外科 診療科長
大島 聡人

サイエンスかながわ 2026 がん研究体験プログラム開催報告

臨床研究所 星野 大輔

臨床研究所では、子どもたちに科学の楽しさを知り親しんでもらうため、神奈川県発信プログラム「サイエンスかながわ」に参加しています。今年も応募者多数のため抽選を実施しました。中学生9名には、細胞と遺伝子に関する講義と、PCRから電気泳動を用いたDNA鑑定を体験していただきました。高校生11名には、免疫とがんに関する講義後、免疫染色や培養細胞操作を行い、共焦点顕微鏡で細胞を立体的に撮影する体験をしていただきました。今回の体験が、子どもたちの医学生物学への興味を深めるきっかけになればと臨床研究所職員一同願っています。



ブラックジャックセミナー開催報告

副院長 伊藤 宏之

第15回ブラックジャックセミナーを8月29日に開催しました。定員50名に対し3倍を超える応募があり、受け入れ枠を拡大して77名が参加しました。当日は、岸田副院長をはじめ多くの職員の協力のもと、縫合実技、内視鏡手術、自動縫合器や超音波メス、手術室での手術体験、重粒子加速器見学、病理実習、肝臓超音波検査、ロボット手術見学、薬剤師による調剤実習など、多彩なプログラムを実施しました。子どもたちは熱心に体験に取り組み、外科医の普段の生活や技術の磨き方、さらには医学部進学に向けた塾選びまで、将来を見据えた質問も数多く寄せられました。また午前中は職員向けの開放を行い、100名を超える職員が参加しました。当センターの医療の質に加え、病院や医療スタッフの「親しみやすさ」についても、多くのお褒めの言葉をいただきました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

ロボット手術見学



縫合実習



全体写真



地域医療連携交流会の開催報告

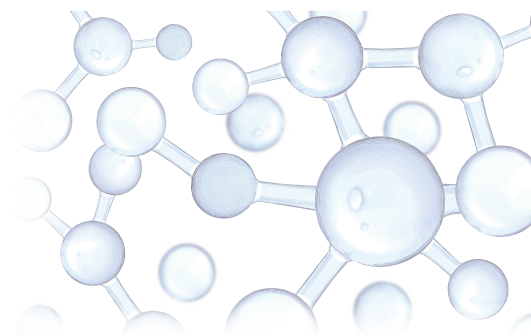
地域連携室

6月25日に「地域医療連携交流会」を開催し、地域医療機関から73名にご参加いただきました。放射線治療施設の見学や、当センターの取り組み、がんゲノム医療、緩和ケア体制などをご紹介します。交流会では活発な意見交換が行われました。和やかな雰囲気の中で、地域の皆さまとのつながりを一層深める実りある機会となりました。ご参加、ご協力いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。



PSA が高い = がん ではありません

～前立腺の“数字”をどう読み解く？～



検診などで「PSA 値が高い」と言われると、不安になる方も多いのではないのでしょうか。
しかし、PSA が高いからといって、すぐに前立腺がんとは限りません。
PSA 値は、がん以外の病気などでも高くなる場合があります。

01 前立腺とは

前立腺は、膀胱の下にあり、尿道を囲むように位置する男性特有の臓器です。

精液の一部となる前立腺液を作る働きがあります。

02 PSA とは

PSA（前立腺特異抗原）は、前立腺から分泌されるたんぱく質で、血液検査によって測定できます。前立腺の状態を知る手がかりとなる一方、前立腺がんだけでなく、前立腺肥大症や前立腺炎などでも高くなる場合があります。

そのため、PSA 値だけで前立腺がんを診断することはできません。年齢や症状、画像検査・病理診断などの結果を総合的に評価して診断されます。

PSA 検査で早期発見を

前立腺がんは早期には自覚症状がほとんどありません。だからこそ、定期的な PSA 検査が早期発見につながります。PSA が高いと言われても過度に心配せず、まずは泌尿器科などの専門医に相談しましょう。

泌尿器科 部長
中井川 昇



2026年度（第19回）神奈川県立がんセンター 緩和ケア研修会

本研修会は、基本的緩和ケアの質向上を目的とした研修です。症状緩和やコミュニケーション、意思決定支援など、明日からの臨床に役立つ内容を幅広く学ぶことができます。また、診療報酬の一部において、本研修の修了が算定要件となっている項目もあります。同じ志を持つ仲間との交流を通じて、日常のケアをさらに充実させる機会として、ぜひご参加ください。

日時

令和8年11月15日(日)
8:50～17:00
(受付8:30開始)

会場

神奈川県立がんセンター
管理・研究棟5階 講堂

対象

がん診療に携わる医師・歯科医師 及び
医療従事者

申込み方法

がんセンターHP申込み入力
フォームよりお申込みください。

問い合わせ先

神奈川県立がんセンター 総務企画課
〒241-8515 横浜市旭区中尾2-3-2

☎ 045-520-2222 📠 045-520-2202



治験 ニュース

当センターでは、募集中の治験等の情報をホームページに掲載しています。
トップページから右上の「治験・臨床研究」をクリック後、「治験一覧」を
ご覧ください。左記の QR コードからもアクセス可能です。

募集中の治験情報（疾患別・2026年7月10日時点）



HP はこちらから

①非小細胞肺がん	26 件	⑩肝細胞がん	1 件
②固形がん	6 件	⑪神経内分泌がん	1 件
③胆道がん	8 件	⑫多発性骨髄腫	1 件
④膀胱がん	5 件	⑬B細胞性非ホジキンリンパ腫	3 件
⑤再発悪性神経膠腫	1 件	⑭乳がん	5 件
⑥胃がん	3 件	⑮頭頸部扁平上皮がん	1 件
⑦食道がん	2 件	⑯卵巣がん	1 件
⑧直腸がん	2 件	⑰消化器がん	1 件
⑨ NSCLC、メラノーマ、 HNSCC、GC、CRC、ESCC	1 件	⑱子宮がん	2 件

※同じ疾患でも対象が異なる場合があります。詳細はホームページをご確認ください。
※掲載していない治験もあるため、気になる疾患がありましたら、お電話等でお問い合わせください。

受診方法のご案内

予約 方法

神奈川県立がんセンターは、紹介予約制を採っています。
患者さんに紹介状をお渡しいただき、下記電話番号へ予約申し込みするようにお伝え
ください。

初診予約（がん相談支援センター）



045-520-2204（医療機関専用）



045-520-2210（患者さん専用）

受付時間 8:30~17:00

インターネット
予約申込ページは
こちら



編集後記

暑さもようやく和らぎ、秋の気配を感じる季節となりました。今号では「脳腫瘍診療の最前線」に加え、
前立腺がんの早期発見につながる PSA 検査について解説しました。がん医療が進歩しても、治癒の可
能性を高める基本は早期発見です。地域の医療機関で広く検診を受けていただき、異常があれば専門
医療機関へつなぐ。この連携こそが、進行してから発見されるがんを減らし、より多くの患者さんの
治癒につながります。また、中高生を対象とした院内体験会では、未来の医療を担う若い世代の姿に
頼もしさを感じました。地域とともに現在のがん医療を支え、次の世代へつないでいく。今号がその
大切さを感じていただく機会となれば幸いです。

副院長兼地域連携室長 岸田 健

編集・発行

神奈川県立がんセンター
〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代)
<https://kcch.kanagawa-pho.jp/>

